

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

総合東京病院通信

2017.8

Vol. 58

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

総合東京病院通信 Vol.58

●平成29年8月発行

●編集・発行／総合東京病院

〒165-0022 東京都中野区江古田3-15-2

TEL. 03-3387-5421(代)

特集

全身の動脈硬化疾患とカテーテル治療

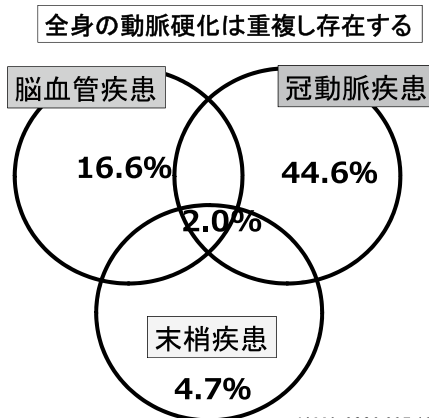


循環器内科
中野 雅嗣

近年食事の欧米化が進み、いわゆる動脈硬化が原因となり生じる病気が増加しています。

全身の動脈硬化は（図1）のように重複して存在します。例えば狭心症と

図1



診断された患者様は心臓にある冠動脈（心臓の筋肉に血液を送る血管）が動脈硬化により狭小化（血管の内腔が狭くなること）しています。このような患者様の30%前後は頸動脈（脳内に血流を送る頸部の動脈）や腎動脈や下肢動脈等に動脈硬化が生じるといわれています。動脈硬化の原因となる代表的な危険因子には、高血圧、糖尿病、脂質異常、喫煙がありこれらの罹患数が多くなるほど複数の動脈に動脈硬化疾患が生じることが知られています。先に述べた4つの危険因子に加え年齢も動脈硬化に大きく影響します。65歳以上で危険因子を有する人は、高率に動脈硬化疾患が潜在する可能性があります。頸動脈の動脈硬化は脳梗塞の原因となり、腎動脈の狭窄は難治性高血圧や腎不全の原因となります。また下肢動脈硬化は間欠性跛行と呼ばれる歩行時の



PET-CT装置

PET-CTがんドック予約受付中

「PET-CTがんドック」 ※総合東京病院の来院申込者

通常料金 108,000円 ➡ 優待料金 **86,400円(税込)**

※「脳検査」を追加の場合は、108,000円(税込)になります。

詳しくは、予防医学課へ

☎03-3387-5462

受付時間/月～土(日・祝除く)
AM 9:00 ~ PM 5:00

特集 全身の動脈硬化疾患とカテーテル治療

下肢疼痛や脱力や、血流障害が進行すると下肢壊疽（指先から足が壊死すること）を引き起こします。このため、動脈硬化疾患を有する可能性が高い人は、たとえ症状がなくても検査を受けることをお勧めします。動脈硬化を調べる代表的な検査には、超音波や造影CT検査があります。超音波は安全で苦痛を伴わない検査であり、主に頸動脈や腎動脈、下肢動脈の評価に用いられます。造影CTには造影剤を使用するため、1-2%の確率でアレルギーが生じる可能性があります。大動脈や鎖骨下動脈、腸骨動脈等のエコーでは評価できない体内の動脈を評価できる他、動脈の血管径や石灰化（カルシウムの付着による硬化）や、走行（蛇行や変形）も詳細に観察することができます。

す。これらを組み合わせて行うことで全身の動脈硬化が生じている場所とその程度を調べることができます。動脈硬化疾患の加療には外科的手術加療と、カテーテルを用いた経皮的血管形成術があります。現在では（図2）に示したように様々な動脈硬化疾患に対して経皮的血管形成術であるステント植え込み術により治療が行われています。カテーテル治療は動脈血管に細い管を挿入して低侵襲で行うことができます。加療に要する入院期間も3日から4日と短期間です。当院の循環器センターでは全身の動脈硬化疾患を評価して適応があれば積極的にカテーテル治療を施行しています。全身の動脈硬化が心配な方は是非循環器内科を受診して精査を受けることをお勧めします。

全身血管病 (Endvascular) の治療の重要性

図2

